



よくテストに出されるもので、誤まりやすい漢字に、探検の検と冒険の険、試験の験と検査の検があります。

検、険、験、……。右側の部分が同じだけに、これらをよく取り違えてしまうわけです。それは、これらの漢字の意味を正確に知らないために間違えるのですが、結局は「木、卩、馬」と「僉」という、部首の持つ意味や性格を知らないためにおかす誤まりというべきです。

今までのように「探検」とは、「……」という意味のことは、「冒険」とは、「……」というようにただがむしゃらに覚えたのでは、検と険と取り違えるのがあたりまえです。ところが、木と卩の違いさえ理解すれば、もう絶対に取り違えることなどなくなります。

僉は、<sup>くち</sup>△と<sup>ひと</sup>口と人の三つの部首から成り立っている部首です。旧字体では「僉」で、△と□と从とでできていましたが、構造的には新旧とも全く違いはありません。

△は「<sup>シュウ</sup>集」の意味の部首で、三方からひと所に集まることを符号的に示した指事字です。△が原形です。「会」や「合」の上の部分があります。従って「僉」は「人の口を集める」つまり、「人々の意見を集める」ことだと推察がつくでしょう。古典に「公卿僉議」という見慣れないことばが出て来ても、このような学習をしていれば困らないはずで

検は、記録(昔は紙がなかったので、木や竹のふだに字が書かれた)によって意見を集約する、「しらべる」という意味の字です。つまり、木は今の書類を意味する部首で、同じ木から成る査という字と組み合わせで「検査」というように使われます。「探検」は「さぐりしらべる」意味ですから、どうしてもこの「検」でなければなりません。

僉は議論を集約することですから、「約(きりつめる)」という意味にも使われます。「儉約」の儉がこれです。人が生活の無駄を切りつめることなので、イと組み合わせられました。

また、物を集約するためには、取捨を峻厳にしなければなりません。選抜するためには、どうしてもきびしさが伴います。それで「僉」には「きびしい」という意味が生まれます。険や嶮の僉がこれです。

卩は、古い字形はで、崖の象形です。崖という意味の部首です。崖の峻厳なのが険であり、山の峻厳なのが嶮です。大変に「あぶない」ので、「危険」というようにも使われます。「冒険」とは、あぶないことをあえてする(冒はおかす)ことですから、これも「険」でなければなりません。

験は、たくさんの馬の中から駿馬を“選抜する”ことです。これは毛なみや体格を見ただけでは分からないので、駈けさせて“ためし”てみなくてはなりません。だから“ためす”というのが本義で、「験算、実験、試験」など“ためす”意味の時に使うのです。